

様式 3

平成 29 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立鳥取湖陵高等学校
学校長 濱 崎 公 嗣

評 価 日		平成 29 年 7 月 7 日 (金)			
委 員 員	氏 名	年齢	性別	資格・所属等	委員長
	高田 裕子	45	女	鳥取湖陵高等学校 P T A 副会長欠席	○
	山本 亨	55	男	鳥取市立高草中学校長	
	平家 裕一	64	男	湖山西地区公民館長	
	伊奈 公子	58	女	鳥取大学附属幼稚園副園長	
	伊田 大輝	29	男	鳥取湖陵高等学校同窓会長 欠席	
評 価 ・ 提 言					学校の所見・改善策等
1 前年度の最終評価について 特に意見なし 2 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について ・「自分が将来どうしたいか」を持ち続けければ必ず実現できる。昨年は夢を学ぶ機会があった。 ・昨年度から始まった湖陵フェスタで PTA が豚汁 500 食を作った。参加する保護者も増え、引き続き食育プロジェクトに取り組みたい。 ・情報科学科作成の「i 科通信」を中学校へ配布してほしい。進路を決める参考になる。 3 今年度の評価計画について (1) 目標設定について 特に意見なし (2) 目標達成のための取組について ・鳥取大学では今年度より高校生のインターンシップを受け入れている。県教委と大学との協定も検討中。キャリア教育の一つとしてぜひ活用してほしい。また、鳥大・湖陵高校の施設をお互いが活用することで、使っていない資源を有効活用できる。 ・専門性を生かした交流をしてはどうか。 ・高校生が指導役となる場合、その準備をしっかりとしてほしい。 ・幼稚園年長時代は「一番上のお兄さんお姉さん」としてできていたことが小 1 の立場になるとしなくてもいい状況になったりする。高校では常に向上できるよう上手に中高連携してほしい。 ・アクティブラーニングの目標設定はどのようになっているか。目標設定が取組の充実を左右する。 (3) 評価基準及び評価指標について 特に意見なし 4 学校運営や予算に関する提言 (1) 学力向上について ・1 点でも 2 点でも学力点数を向上させてほしい。 (2) 18 歳の出口について ・中学校にとって 18 歳の出口がわかりにくい。以前よりパンフレットも充実し改善されてはいるが。湖陵高校は 5 科ありコースも豊富で、魅力的な部分がある。 (3) その他 ・教科書採択の方法・選定理由等について了解。					・今年も先輩に学ぶ学習やインターンシップなどの経験を積むことで夢を現実へと近づけた。農業クラブの取組では先輩が後輩を育てる部分が多い。 ・高校は情報発信が苦手な部分がある。改善したい ・鳥大でのインターンシップなどぜひ検討したい。また、農業科教員育成も急務である。 ・中学生体験入学や湖陵フェスタで、高校生を指導者とした実習や、情報科学科の専門性を生かした ipad 交流などを検討中。1 年間かけて生徒を育てていきたい。 ・成果指標のひとつとして資格取得を設定。また ipad 活用状況も良好である。 ・学力差に応じるため今年度 1 年生は国数英で 2 クラス 3 展開の少人数授業。始業前に「マナ数」など学びなおしも取り入れている。学習指導委員会を中心に学力向上に引き続き取組む。 ・農業学科を卒業すると就職も農業関係しかないという誤解があるが、多岐にわたる就職進学先がある。丁寧に説明したい。